

【国際シンポジウム】

恵泉 × 梨花

「女性の生き方」

女性の「生涯就業力」と
女子大学の新しい役割

part3

今、女子大学生に必要な高等教育を考える



基調メッセージ 大日向雅美

恵泉女学園大学長

お茶の水女子大学。同大学院修士課程修了。東京都立大学大学院博士課程満期退学。学術博士。1989年より恵泉女学園大学に勤務。2016年から現職。40年余り母親の育児ストレスや育児不安を研究。法人NPO「あいぼーとステーション」代表理事。子育てひろば「あいぼーと」。施設長として地域の子育て・家族支援にも取り組んでいる。2016年6月男女共同参画社会づくり功労者内閣府総理大臣賞受賞。



講演 金恩實 キム・ウンシル

梨花女子大学教授、同大アジア女性学センター長

1993年カリフォルニア大学で学位取得、1995年から梨花女子大学女性学科で教鞭をとる。韓国の国民・国家形成と近代化過程における女性の変容をテーマに、女性の身体（「身」）に関する近代性、民族主義について研究を行う。現在はグローバル化、知識および権力と女性、アジア女性、植民地等をめぐって、ジェンダー学、近代文化史学の立場から広く研究活動を行っている。主な著作に『女性の身体、身』の文化政治学など。



コメンテーター 山川百合子

衆議院議員

恵泉女学園高等学校、恵泉女学園大学英米文化学科卒業。英国ハル大学留学（修士号取得）、NGOピースウィンズジャパン（PWJ）のスタッフとして、主にインドネシアのパプアで人道支援活動のため約2年間駐在。2003年埼玉県議会議員選挙に初当選、以来4期連続当選。学問的知識や国際人道的支援活動の経験を活かし、社会的マイノリティの切実な課題解決に取り組む。



コメンテーター 李明宣 イ・ミョンソン

梨花女子大学教授、同大アジア女性学センター特任教授

女性学博士。アジア・アフリカの女性活動家教育（Ewha Global Empowerment Program）を担当。「アジア8カ国のカリキュラム開発事業」「次世代女性学研究者の交流事業」など女性学研究と教育事業に参加。「韓国性暴力相談所」「アジアの女性学会」など女性団体や関連機関の諮問委員や理事。共著に『Asian Feminist Pedagogy and Women's Empowerment』『グローバル時代のアジア女性学と女性運動の争点』など。



コメンテーター 上村英明

恵泉女学園大学教授、同大平和文化研究所所長

1981年早稲田大学経済学研究科修士課程修了。1982年人権NGO市民外交センターを設立、代表。専門は、平和学、国際人権法。代表を務める市民外交センターは1999年国連で特別協議資格を取得。先住民族・マイノリティの支援活動に取り組む一方、近代日本と脱植民地化の再検証問題に取り組む。著書『新・先住民族の「近代史」——植民地主義と新自由主義の起源を問う』、論文に「日本における脱植民地化の論理と平和学」など多数。

日時
2018年5月26日 土

13:30▶16:00 (開場13:00)

会場

恵泉女学園大学
J棟 202 教室

お問合せ先

恵泉女学園大学 (担当▶土屋、野間田)

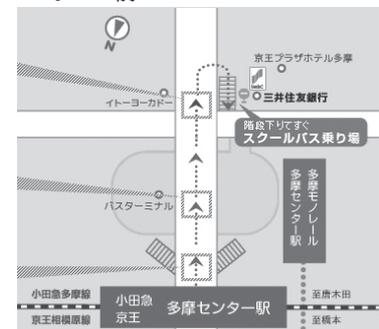
TEL 042-376-8211 (代)

042-376-8371

E-mail : shomuka@keisen.ac.jp

な
ぜ今の時代に女子大学で高等教育を受ける必要があるのでしょうか。韓国梨花女子大学と恵泉女学園女子大学の教育力と女性の生き方に関して議論を続けてきました。国境を越えてアジアに生きる女性に必要な高等教育のあり方、社会的な役割についても考えます。

恵泉女学園大学アクセス
小田急・京王・多摩都市モノレール
「多摩センター駅」下車
本学へはスクールバスまたは路線バスでお越しいただくこともできます。
スクールバスのご案内
京王プラザホテル多摩の直前の階段を下る。乗車時間8分、交通事情により多少変動があります。随時運行します。



恵泉女学園大学 <http://www.keisen.ac.jp>

恵泉女学園大学平和文化研究所 <http://www.keisen.ac.jp/extension/research/peace/>

主催◎恵泉女学園大学 / 恵泉女学園大学平和文化研究所